

# 未来を開く

長井市立長井北中学校 No83 令和5年 3月16日

## 令和4年度 第41回 【卒業証書授与式】を挙行

### ◇◇卒業証書授与式「式辞」より◇◇



■春の柔らかな日差しが、校庭の木々に温もりを伝え、大地の鼓動が確かな春の訪れを感じさせる今日。長井市長内谷重治様、長井市教育委員会教育長職務代理者遠藤倫夫様はじめ、ご来賓の皆さま、そして、保護者の皆さまご臨席のもと、全校生が一堂に会し長井市立長井北中学校第41回卒業証書授与式を挙行できますことは、このうえない喜びであります。心より感謝と

御礼を申し上げます。

■さて、ただ今、卒業証書を手にした104名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

■皆さんは、明るく素直で笑顔が似合う学年でした。下級生の手本

となり尊敬される先輩となりました。整理整頓された教室と廊下、集中した授業態度で、「これができれば北中生」の凜とした姿を具体的に示してくれました。

■皆さんが本日を迎えることができたのは、ご家族の深い愛情、地域の方々の援助、そして先生方の熱心な指導の賜物です。感謝の気持ちを忘れず言葉にして伝えてください。

■卒業にあたり、皆さんに二つの話をします。

■一つ目は、本校の教育目標であり、校歌の一節にもある「たくましいからだ、たくましい心を持った人を、めざし続ける」ということです。これは、皆さんの先輩方にも伝えてきました。

■皆さんはこの三年、我慢と忍耐を強いられる日々が続きました。しかし、しなやかでめげない心と固い友情で、この難局を乗り越えてきました。「たくましいからだ」とは、難儀なことにも挑戦し、失敗しても立ち直ろうとする健康な身体を持つということです。

「たくましい心」とは、自分さえよければいいという利己主義を排し、自分と異なる他を受け入れ、励まし協力し合い向上しようとする精神です。この3年間の体験を糧に、たくましいからだと心を一層磨き続けてください。

■二つ目は、「夢を持つ」ということです。吉田松陰の言葉を紹介します。吉田松陰とは、江戸時代末期いわゆる幕末、長州藩、今の山口県で松下村塾（しょうかそんじゅく）を開き、久坂玄瑞（くさかげんずい）、高杉晋作、伊藤博文、山県有朋など、やがて明治維新の原動力となる人材を育て上げた人です。

夢なきものに理想なし／理想なきものに計画なし／計画なきものに実行なし／実行なきものに成功なし／ゆえに、夢なきものに成功なし と。

■夢は決してあなたを見放しません。夢を見放すとすれば、それは自分です。そこで、夢を持ち成功させるためのキーワードを伝えます。「口」という字を書きます。その右横に「+（プラス）」と書きます。プラスの下に「-（マイナス）」を書くと「吐く」という言

葉になります。手の平に一度書いてみましょう。

■弱音を吐く、捨て台詞を吐く、相手を傷つける言葉を吐く・・・私たちはついマイナスの言葉を使いがちです。マイナスの言葉は、マイナスの発想と行動につながります。そこで、マイナスの言葉を口から出さぬよう心がける。すると、マイナスの文字は消えて、口の横にはプラスの文字だけが残り、口にプラスで「叶う」という字になります。手の平にいま一度書いて確かめましょう。

■この先、夢をあきらめかけようとしたとき、手の平に「叶う」の字を書いて「プラスの言葉」を探し口にしてみましょう。きっと希望に満ちた言葉があなたを成功へと導いてくれるに違いありません。人生の主人公は自分なのだという思いで、チャレンジしましょう。すると、必ず応援してくれる人も現れます。安心して歩み続けてください。

■さて、保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。本日を持ちまして、中学校の課程を終え、義務教育9年間に修了されました。感慨もひとしおの事と存じます。

■わたしたち教職員一同、微力ながらも心一つにして教育活動に取り組んでまいりました。至ら

ない点多々あったことを、お許し願います。また、本日まで、PTA及び後援会の活動等をとおして、本校の教育にお寄せくださいましたお力添えとご支援に、厚くお礼申し上げます。

■結びに、ご来賓の皆さま、保護者の皆さま、本校の伝統を引き継ぐ在校生の皆さんとともに、卒業生の前途に開ける『未来』に、幸多からんことをお祈りし、式辞といたします。

令和5年3月16日

長井市立長井北中学校長 迎田 浩昭

